
情報番号：教育技法—6

テーマ：インシデントプロセス

編著者：IBEX-T

1. インシデントプロセスとは

インシデントプロセスは、マサチューセッツ工科大学（MIT）のポール・ピゴーズ、フィエス・ピゴーズ教授夫妻が 1950 年に考えたケースメソッドの変形版をいう。

ケースメソッドと同じ問題解決型の事例研究だが、ケースメソッドが背後にある事実が事例の中に含まれているのに対し、インシデントプロセスでは、実際に起こった出来事（インシデント）だけが提示され、背後にある事実はリーダー（講師または事例提供者）に質問で収集し、それを基に問題解決を図っていく進め方をする。

インシデントプロセスもケースメソッドと同じように事例の当事者になって考えていくが、ねらいは、「ケースの中で起こったことと類似したことが、日常活動の中で、問題が起こった時にすばやく応用できるようにすること」に主眼が置かれる。したがって、事例は現実に関係した事実や起こりうる問題を取り上げるのが一般的である。

インシデントプロセスはケースメソッドと違って、膨大なケースを読まずに済み、推理もののように事実や現象が質問によって現れてくるから、受講生にとっては興味の起こる事例研究法といえよう。MIT で最初に実施されたが、後に様々な変形が現れてきたため、この方式をピゴーズインシデントプロセス（PIP）と呼ぶこともある。